



JR九州連合情報

No. 21

2021年2月15日

発行責任者 中原 博徳

編集責任者 住吉 一家

JR九州グループ労働組合連合会

JRグループ労組連絡会 2021 春闘総決起集会

最優先に取り組むことは「雇用」と「生活」の維持！

JRグループ労組連絡会は2月10日、大阪市をメイン会場に全国5会場をリモートで接続し、2021春闘総決起集会を開催した。そして、加盟する全組合が「ONE TEAM」で今次春闘を闘い抜く決意を固め合った。

荻山会長は、未曾有の危機の中で臨む2021春闘に当たり、JR産業を守るための政府や国会議員への要請行動に取り組んだ成果に触れながら、加盟組合に対して雇用と生活の維持を最優先に位置付ける取り組みを要請した。そして、近視眼的な対応で組合員の安心や意欲を失うことがあってはならず、中長期的な視点で交渉に臨み「JR連合に結集する全組合員が一致団結して奮闘しよう！」と呼びかけた。



春闘は年に1度の重要な機会！コロナ禍の中でも要求すること自体は「悪」では無い！！

JR各単組とグループ労組の方針を一本化した2021春闘は、多くの仲間が雇用と生活の不安に苛まれており、これらの維持を最優先に取り組まざるを得ない状況にあることから、賃金に関しては年度初における定期昇給相当分(5,000円)の確保を最優先に取り組むことが重要となる。

一方で、JR産業の働きの価値に見合った水準として設定した必達目標賃金(グループ労組は各業種の100~999人規模の第一四分位)に未達の組合が多く存在していることから、そうした組合は「底支え」「格差是正」の観点から1,000円を目安に純ベア要求を設定することとしている。

また、労使協議を通じて雇用の維持・創出に向けた考え方を確認することや、雇用調整を目的とした出向はグループ内での出向を原則とすること、一時帰休の実施に伴う休業手当は平均賃金の100%を求めることなどを確認した。

JR連合は、極めて厳しい環境に置かれている2021春闘を後押しすべく、国や関係省庁、国会議員等に引き続き様々な要請を行い、グループ労組の春闘を支援する決意を明らかにした。

春季生活闘争は、年に1度の賃金をはじめとした労働条件を改善できる重要な機会であり、労働組合への求心力や企業への帰属意識を高めるチャンスでもある。コロナ禍の中で要求すること自体は悪ではなく、今できることを最大限取り組むことを参加した全員で確認した。

JROSS労組の檜鶴執行委員が決意表明！ONE TEAMの一員として全力で闘む！



集会の最中、各分科会の代表者から2021春闘に臨む決意が表明され、一般分科会を代表してJR九州システムソリューションズ労組の檜鶴亮執行委員が登壇した。

檜鶴執行委員は、2020春闘におけるJR九州連合の成果と課題を振り返りながら、今もなお必達目標賃金に到達していない現状を踏まえ、2021春闘でもベア要求を掲げ、ONE TEAMの一員として組合員の雇用と生活を守り抜くために最後まで闘い抜く決意を明らかにした！

今できることを最大限取り組もう！